

一月二日 木曜日 恋するは学校へ行く日

年賀はがきが来ると、きまった文句がある。
「明けましておめでとう」など。

それは形式であり、その語に親しみは少しもない。

その文句の横に、二三行で書いてある、
その投函者自身の言葉、それ、そのものに、
親しみを感じ、その文を読むことにより、
そのはがきに価値がでてくる。

目ざめはいつか知らない。

起きて服を来て、下におりたら、一時前。

まあ何とよく寝ること。

コタツの台の上に、父の年賀と一緒に、
僕の年賀が四枚。

すぐ部屋にもどり、その返事の年賀を書く。
ついでに小川の健ちゃんところにも

一枚特別に書いて合計5枚。

おばあちゃんに外出するついでに、
弟の京太のと一緒に投函してもらった。

おばあちゃん、着込んで、どこかへお出かけ。
お伊勢さん参りとか言っていたのを思い出す。
明日の朝方に帰って来るらしい。

